

の政府関係者が国連でヒアリングを受け、それとは別に障がい当事者やその家族、支援団体も国連でヒアリングを受けるため、全国手をつなぐ育成会連合会からは田中専務が、日本弁護士連合会からは権利擁護センターの専門委員でもある関哉弁護士がスイスに同行されています。

この審査には教育分野への対応状況もあり、条約では「障害者が一般的な教育制度から排除されないこと」、「他の者との平等を基礎として、自己の生活する地域社会で障害者を包容した初等・中等教育を受けられること」と規定されており、日本での特別支援学校・学級での分離教育について、改善が必要な点として勧告が出されるのではないかとあり、実際に9月9日には「総括所見」として勧告が出されました。

本来、学びの場の選択や交流学习の進め方は、本人と保護者の意向を踏まえつつ、個別の教育支援計画に基づき展開されるべきで、大阪市の「ともに学び、ともに育ち、ともに生きる」という理念から、今後も個々に応じた教育が提供されるように願っています。

令和4年9月1日

大阪市教育委員会
教育長 多田 勝哉 様

一般財団法人 大阪市身体障害者団体協議会
会長 手嶋 勇一
社会福祉法人 大阪市手をつなぐ育成会
理事長 長谷川 美智代

令和4年4月27日付通知 「特別支援学級及び通級による指導の適切な運用について」にかかる要望について

日ごろから障がいのある人や子ども(以下「障がい者」という。)とその家族の福祉についてご尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

私たち一般財団法人大阪市身体障害者団体協議会、一般社団法人大阪市視覚障害者福祉協会、大阪市聴言障害者協会ならびに社会福祉法人大阪市手をつなぐ育成会では、障がいの状態にかかわらず、ライフステージに応じた適切な支援のもとで安心して暮らすことができる地域の実現を願っており、共生社会の実現を目指して活動に取り組んでおります。

そのような中、本年4月27日付けで文部科学省初等中等教育局長より「特別支援学級及び通級による指導の適切な運用について(通知)」が発出されたことから、下記のとおり要望いたします。


記

共生社会の実現に向けては、インクルーシブ教育の実現に向けた取組みが重要となりますが、現状においても特別支援学級(以下「支援級」という。)に在籍する子どもが通常学級の子どもと十分に交流できていないという意見も寄せられています。

本年4月27日付けの「特別支援学級及び通級による指導の適切な運用について(通知)」では、「特別支援学級に在籍している児童生徒については、原則として週の授業時数の半分以上を目安とし」と示されており、この通知を根拠とした硬直的な運用が懸念されます。

本来、学びの場の選択や交流学习の進め方は、本人と保護者の意向を踏まえつつ、個別の教育支援計画に基づき展開されるべきものです。

大阪市でのインクルーシブ教育は、これまで「ともに学び、ともに育つ」の理念の基、全国でも先進的な取り組みを展開してきた経過があります。今後もこの理念を踏まえ、現行の教育水準より低下することがないよう要望いたします。

マクドナルドの実証実験『エブリウェアベニューシステム』に協力しました 

副理事長 兼 事業統括 上宮 俊一

実証実験って何?と思われる方も多くいらっしゃると思います。この実験は、マクドナルド従業員の障がい理解促進と、知的障がいのある方がマクドナルドを快適に利用できる仕組みづくりを目的に実施されました。

大阪市手をつなぐ育成会としては、本実験の企画段階から参画し、知的障がいのある人が落ち着いて食事のできる店舗の選定や、予約システムの使い勝手について意見を出すなどの協力をしてきました。

ごく簡単に説明すると、マクドナルドの席を事前にスマホで予約でき、注文時に専用スタッフが対応してくれるというものです。

ということで、早速、お盆真っ只中の8月15日に息子を連れていくことに決め(息子はファーストフードが嫌いなので、当事者の意思は無視です(笑))、スマホを片手に予約の入力を始めました。

まず、簡単にできると思っていた入力が意外と難しい。メールアドレスとパスワードに始まり、入力項目が結構多い。スマホに慣れていない人には第一の関門。無事に個人情報を入力を終えたら、ようやく店舗の選択。何やら店舗の外観と内観の写真が6枚出てきて、「こんな写真見てもどこの店舗かわからんなあ」と思